

エルフリーデ・イエリネクの一撃

04ノーベル文学賞受賞〈オーストリア〉

経済学部教授 寺尾 格

この半月ばかり、どうも腰の具合がよろしくない。ギックリ腰というほどではないのだが、ちょっとしたはずみに、クキッと軽い痛みが走る。おかげで、顔を洗うときにも膝を曲げながら、腰を意識する日々が続いている。各方面での無理を重ねているので、思い当たる数々はありすぎて困るほどなのだが、きっかけは明瞭である。

来年度の教養科目改正のアレコレを学長と最終的な詰めの折衝を終えて、ヤレヤレと帰宅して夕飯を食べていると、そこに電話が鳴った。共同通信社からの連絡で、今年のノーベル文学賞はエルフリーデ・イエリネクに決まったという知らせだ。簡単な紹介記事を書いてもらいたいとのことで、もちろん快諾した(10月15日神奈川新聞参照)。

文学的スキャンダル

このオーストリアの女性作家は、ドイツ語圏での批評家筋での評価は相当に高いものの、一般にはスキャンダル作家として有名である。ただし「スキャンダル」と言っても、政治的、あるいは文学的な趣旨のものであって、日本のように色と金の下世話なゴシップとは相当に異なる。一般にすぐれた作家であればあるほど、社会に対する一種の挑発的言辞を行う伝統の強いドイツ語圏では、その種の「スキャンダル」が必ずしもマイナス評価とならずに、むしろ勲章とも言えて、私などは、ドイツ社会の健全な奥行きを感じてしまうほどだ。

1989年にドイツでベストセラーとなったイエリネクの“Lust”という小説も同様で、直訳すると「情欲」というスキャンダラスなタイトルになる(ちなみに鳥影社から邦訳が出ているが、こちらは『したい気分』と、苦心の名訳)。イエリネク本人が「女性によるポルノ小説」とインタビューで述べていたりするので、ノーベル文学賞を報じた欧米メディアの中には、中身を読みもしないで「ポルノ小説作家」と単純なレッテルを張った勘違いもあったらしい。もっとも私とて、出版された直後にイソイソと(?)読み始めたのだから、あまりマスコミの悪口を言えたギリではない。

とはいえ、読み始めたものの……、いやいや、実に難解きわまる。書かれている場面は確かにポルノ的であるはずなのだけれども、様々な比喩、言葉遊び、造語を駆使して、イメージを二重、三重に重ね、ずらし、ぼかしながら、男と女の抑圧構造を「露出」させる。その手際は、駅のキオスクあたりで売られている、時間つぶしの読み捨てポルノ小説のステレオタイプな描写とは全く比較にならないレベルであり、凝縮した、実験的な文体がエンエンと続く迫力。肝心なのは、フェミニズム的な性と暴力の抑圧構造への擬似ポルノの描写が、そのまま社会的にも広がって行く点であろう。つまり、彼女の育ったオーストリアのカトリック的保守性が、戦後、経済的繁栄の中で一貫して否定して来た、ファシズムの過去と現在という「陰部」を「曝露」している。イエリネクは、男性が女性を「ポルノ」という暴力的言辞で「罵倒」し続けるスタイルを利用しながら、オーストリア的な状況を告発する一撃を繰り返しているのだ。

という具合に、アレコレ書き始めていたら、また電話が鳴った。今度は毎日新聞からの同じ依頼で……。結局、夜中の3時に2本とも仕上がったのだが、気が付けば、私も腰がギンギンと悲鳴の一撃? という次第なのである(10月12日毎日新聞夕刊参照)。

てらお・いたる＝専門分野はドイツ文学、ドイツ現代演劇

秋のオープンキャンパス

11月6、7の両日行われた「秋のオープンキャンパス」。模擬授業や各学部教員、在学生との懇談など盛り沢山の企画に受験生は大満足。



プレ入試&解説授業

11月21日(日)神田キャンパスで

専大の過去の出題傾向を予備校トップ講師が分析し、オリジナル予想問題とポイントを押さえた解説授業を行います。

参加費無料。入学願書無料配布。

新潟県中越地震に伴う平成17年度入学試験の特別措置について

次の入学試験における被災地域からの出願者に対し、出願期間の延期の特別措置を行います。

▽公募制推薦(商学部)

▽英語資格取得者推薦(国際経済学科) 11月5日(消印有効)>>11月25日(必着)

▽二部自己推薦・有職者・社会人 11月17日(消印有効)>>11月25日(必着)

二部進学相談会 社会人高校生ら107人が来場

二部(夜間部)の進学相談会が10月13日から3日間、神田キャンパスで開催された。社会人、高校生ら計107人が来場し、自己推薦、有職者、社会人などの入試制度や試験対策について、熱心に質問していた。



学部発信 商学部

セメスター制の活用で「社会知性」磨く



▲商学部の学生が企画した「専修ナビ」

半年間で集中的な学習

商学部では、2000年4月から、専門科目にセメスター制を導入しています。セメスター制とは、半年（セメスター）を学習の一区切りとするもので、週1回の講義で1年かかるような内容（4単位）であれば、週2回講義を行って半年で完結させるものです。

このようなセメスター制には、ひとつの科目を半年間で集中的に学習できるという利点があります。たとえば、前期に4単位の科目を履修して基礎固めをした上で、後期には、より発展的な科目を履修することが可能となります。このようにして、専門分野の力をつけておくことによって就職活動にも役立ちます。

セメスター制の履修科目は前期のスタート時に登録して前期の終了後、成績を通知します。後期の履修科目は前期の成績を踏まえて後期のスタート時に履修の修正をすることができます。商学部では本年度からこれが可能になり、セメスター制の効果がさらに大きくなりました。

2年次で重要な選択2つ

このように科目の履修登録や成績通知の体制が整い、半期一区切りが明確になったことから、商学部では、2年次の前期に学生が勉強するうえで重要な選択をすることになりました。ひとつは、商業学科の学生にとってのコースの選択です。商業学科には現在、マーケティングコース、ファイナンスコース、産業システムコースという3つのコースがあります。2年次の前期に専門科目の学習が進んできた中で、自分が商業学科のどの分野に特に力を入れて学んで行くかをコースで選択するのです。2年次前期のもうひとつの重要な選択は、ゼミナールへの応募です。商業学科、会計学科ともゼミナールは2年次の後期から始まります。したがって、自分が選択するコース等を踏まえてゼミナールに応募することになります。2年次の前期にゼミナールの選考が行われるため、多くのゼミナールでは1年次の時の成績が選考の資料として使用されます。1年次の時に努力すればゼミナールの選考で有利になる可能性があることは、勉強の励みになるでしょう。

以上のように、商学部では2年次の前期にコースやゼミナールを選び、夏休みが明けた2年次の後期から自分が選んだ専門分野の学習を進めて行くこととなります。その時点から、就職活動が本番となる3年次の終わり頃までに、セメスターが3つありますから、「社会知性」を磨く機会も十分にあると言えるでしょう。（手嶋 宣之）

【ニュース専修2004年11月号3面】